

“鮮度一番！”

No.209

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / 柳田国男『地名の研究』を読む 第6便
- 1～2 / ひとことコラム
- 2～4 / 運営委員会で話されたこと
- 4 / ヌエック参加報告 編集後記

柳田国男『地名の研究』を読む

第6便

「ドブ」

ドブと聞けば、春や秋の側溝清掃の苦勞を思い出される方もあるかもしれません。
 「廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お齒ぐる溝（どぶ）に燈火うつる三階の騒ぎも手に取るごとく」（樋口一葉『たけくらべ』集英社文庫）とある「お齒ぐる溝（どぶ）」は、「遊郭の周囲をかこんだどぶ川」と解説されます。『広辞苑』でもドブは、「どぶ（溝）、下水。みぞ。」とあります。しかし、本来ドブとは側溝や下水を指す言葉ではなかったようです。
 『地名の研究』では、「東京では下水堀のことをドブというが、右は明らかに転用であって、以前は阿原と同じく排水不十分なる足入（あしいり）の地のことである。」と、ドブが水はけの悪い湛水地だと喝破します。ちなみに足入（あしいり）とは、「泥土。ぬかるみ。」（『広辞苑』）だそうです。また、ドブ、土富、土深、土腐、土浮などが事例としてあげられています。漢字から、往古、人々がドブのイメージを伝えるのに、腐心した様子が伝わってきます。（杉野真司・H28.9.6）

・・・ひとことコラム・・・ 人とのかわりを持ちながら生活する

島田 伸子

私の母は10月で91歳になる。今年の6月から三条市の健康運動教室に通い始めた。一昨年父が亡くなってから体調を壊しこのまま父が連れて行ってしまうのかと心配した。肩が痛い、首が痛い、膝が痛い、関節が痛い、寝返りも打てない。いくつもの整形外科、鍼灸院に行ったが埒があかない。結局かかりつけの病院で血液検査をしたら関節リウマチの診断がつく。持病があるため即効性のあるステロイドが使えず少しずつ緩和する薬での処方となる。それでも診断がつき治療が始まると気持ち的に楽になったのか前向きに物事を考えられるようになってきた。その一つが健康運動教室で

ある。タクシーの送迎で下田の保健センターに行っている。家でも毎日6000歩は歩くこと、3種類の筋トレをすることを指導され朝晩に家の近くを歩いている。背中が曲がっているので知り合いに会うと大変だねと言われるそうだ。3か月に一回筋肉量などを図る。体力年齢が少し若返えただけでもうれしそうである。体を動かしたり、人とのコミュニケーションができる健康運動教室はちょっとした楽しみになっている。

三条市の高齢化率29.9%（28年6月現在）。超高齢社会になっている中で「明るく楽しく元氣よく」暮らしていけるのは理想。それを少しでも現実にしていくには人とのかかわりを持っていくことが大切なのだと思つて母を見てつくづく思う。一人暮らしの母は町内、友人、老人会などいろいろな人たちとのかかわりを持ちながら助けられながら生活をしている。今日も前の家から惣菜が届けられた。ありがたく感謝である。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成28年9月7日（水）（AM9：30～11：30）

場 所 男女共同参画センター（桜木町）



いくつになっても、やっぱり秋は、食欲の秋！体重の増加を気にしつつ、天の恵みを感謝とともにいただきましょう（^o^）/

10月の運営委員会は、ちょっとお休みして次回は、11月2日（水曜日）

9：30～男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

1.

「男女共同参画推進フォーラムツアー」（8/27）参加報告

上記フォーラムが、8月26日から28日の3日間、国立女性教育会館（又エック）で開催されました。ツアーへは、当会より西方、安室、米田の3名を含めて9名と、市から女性政策担当の布施さんと会田さんが、参加されました。

テーマは、「つなぐ、あらたな明日へ 一人ひとりが活躍できる社会を創る」で、

午前中は、各自が選んだワークショップ、午後は、シンポジウム「本音で語る 男もつらいよ！男性の働き方改革とワークライフバランス再考」と、数年前から当会のFMラジオ「ワイワイ女性ひろば」で取り上げている「男もつらいよ！」がテーマでした。

今月号と来月号とに分けて参加報告を掲載します。どうぞ4ページをお読みください。

2.

各種審議会等について

安室久恵さんから2件の報告がありました。

第1回三条市介護保険運営協議会 報告

平成28年度第1回三条市介護保険運営協議会が8月8日（月）、三条市役所 第2庁舎で開かれた。

議題

（1）平成28年度三条市介護保険運営委員協議会の審議計画について

第1回8月8日 第2回29年2～3月

（2）三条市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画 平成27年度達成状況について

（3）三条市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画における施設整備について

（4）介護保険の実施状況について

各議題について資料に基づいて高齢介護課の担当者から説明を受け、すべて了承された。

第1回地域包括支援センター運営部会 報告

三条市介護保険運営協議会に続いて平成28年度第1回地域包括支援センター運営部会が開かれた。

議題

- (1) 平成28年度地域包括支援センター運営部会の審議計画について
第1回8月8日 第2回29年2月～3月
- (2) 介護予防給付ケアマネジメント業務委託について
要支援者の介護予防サービス計画（ケアプラン）の作成を委託する事業所が報告された。
- (3) 平成27年度地域包括支援センターの実施状況について
- (4) 平成27年度地域包括支援センターの収支決算について
5か所の地域包括支援センターごとの平成27年度収支決算報告がなされた。
各議題についてすべて了承された。

3.

燕三条エフエム放送（ラヂオは〜と76.8MHz）ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00～11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30～20:00

9月のテーマ 「市島教授のコミュニケーション講座」

- | | |
|-------------------|------------------|
| ①ストレスって何だろう？ | ②ストレス対策どうしてる？ |
| ③コミュニケーションでストレス解消 | ④健康づくりとコミュニケーション |
| ⑤コミュニケーションを鍛えて健康に | |

メンバー：市島清貴（新潟経営大学経営情報学部教授）
近藤晴美（三条市福祉部健康づくり課課長）
野崎ミチコ、田辺とも子

今月は、「健康とコミュニケーションは密接な関係があるらしい」との考えで、“ストレス”に焦点をあてました。メンバーの、日ごろ感じるストレスは、「今、やろうと思っていたところに催促される」「玄関で揃えられていない夫の靴」「商品の扱いに丁寧さを欠くスーパーのレジ係り」等々、他人のストレス源は笑えます。対処法としての、「畑や庭で土いじり、水まきをする」「万年筆を洗う」「ロックを聴きながら料理する」「カラオケで歌い、拍手をもらう」「趣味に没頭する」等々は共感し合えるものでした。この些細とも思われるストレスは今や現代人にとって「万病のもと」と言われるそうで、コミュニケーション力で予防できるのではと話を発展させました。「コミュニケーションのスタイルはどんどん変わる。夫婦間、親子、昔とは違う。だから学習し続けていかなければならない。心を鍛え、他人の発言にくよくよしない！骨太のコミュニケーターになることが肝要」との市島教授の言葉で、一同納得の、今年度当会最終月となりました。どうぞお聞きください。

収録前、“ワイ女”のファンという方にお会いしました。番組を録音して聴いておられると同じ、身が引き締まると同時に来年度への励みにしたいと思いました。応援、ご協力くださった皆様、お聞きくださいました皆様ありがとうございました。

★ある40代男性の認知行動療法をストレス対策に応用したコーピング（対処すること）の一部を紹介します。

叱っている上司の顔のほくろを数える、寝る前に頑張った自分をほめる、結婚前の妻とのデートを回想、宝くじが当たったら誰に言って誰に言わないかを考える、鳥の唐場でビールを飲む等を含め100個の対処法を考えています。

(田辺)

4.

三条マルシェへの参加について

先月に引き続き「三条マルシェ」への出店について話し合いました。
気候のよい春頃に、開業助産師西方久子さんの赤ちゃん相談を中心に、女性会議のピーアールとゆっくり座っておしゃべりの出来るスペースを設けては…と。まだまだ模索中ですので、皆様のご助言、お力をお貸しくださいますようお願い致します。

【又エック参加報告】

三条市 市民部地域経営課地域振興係 主事 会田 由衣（あいだ よしえ）

今回初めて男女共同参画推進フォーラムに参加した。2日目の午前のワークショップと午後からのシンポジウムに参加した。北海道から沖縄まで、全国各地から多くの人が集まっていた。

午前のワークショップでは、「行列ができる講座の企画と思わず手にとるチラシの作り方」に参加した。本来6時間は必要な内容を2時間で行うので、非常に走り走り、主にチラシの構成、講師の手直し前と手直し後のチラシの比較について具体的な話が行われた。企画力のチェックということで、チラシだけを見て、その講座は募集人数に対してどれ位の応募人数が集まったかというクイズを実施した。その中で、タイトルというのは非常に重要で、チラシのタイトルを変えただけで応募人数が急に増加したという例もあるということを知った。

また、人が集まるためには、面白そう、楽しそう、役に立ちそう、仲間づくりができるなど、受講者にとって加点ポイントがあるかどうか大切であるということを知った。

午後からのシンポジウム「男もつらいよ！～男性の働き方改革とワークライフバランス再考～」では、働き方改革をテーマに取り上げ、男女が共に働きやすく生活しやすい社会を創出するための議論が行われた。実際に育児休暇を取得した男性の視点から、ワークライフバランスについて話を聞くことが出来た。その中で、「自分の人生は他の誰でもない、自分がデザインをする。育児休暇は男性、女性に限らず、取るべき人が取るべきで、抑圧されるものではない。」というのが印象的であった。男性の育児休暇取得率がまだまだ低い中で、この考え方は非常に心に響いたと同時に、多くの人にこの考え方が浸透していけばいいと思った。1人の人生の中にいろいろな局面があってよく、それを社会全体で認め合い、支え合っていけば、男女共同参画社会の実現につながるのではないかと感じた。

編集後記：

台風ひっかきまわされた稲刈りが無事に終わりました。二番目の孫の稲刈りデビューもあり、といっても1歳半の孫にとっては、履きなれない長靴を履かされ、田んぼに立っているだけで精いっぱい様子でした。何はともあれ終わればバンザイです。あちこちの痛みと闘いながらの鮮度一番209号、どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>